

2005.02.22.

熱海梅園と起雲閣

平成 17 年 2 月 14 日(月) ~ 15 日(火)熱海へ行きました。往きには南箱根ダイヤモンドの知人宅に立ち寄り富士山がとても美しかったので一枚撮りました(左の写真)。



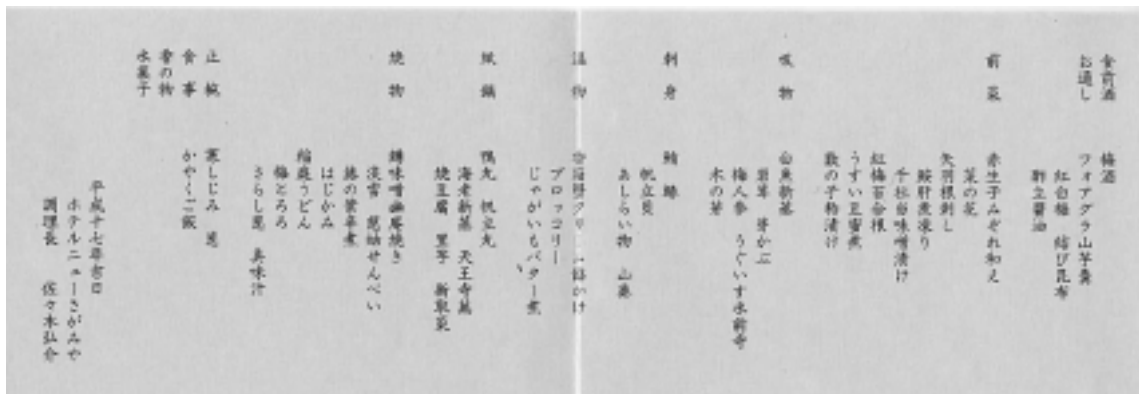
南箱根ダイヤモンドには函南からタクシーで行き、そこからまたタクシーで熱函道路、あたま梅ライン、来宮駅、熱海ビーチラインを通過して宿泊予定のホテルニューさがみやへ行きました。玄関には着物を着た女性が出迎えてくれて、ホテル

というよりは昔の旅館という雰囲気でした。部屋からの相模湾の眺めはすばらしく、初島そして遠方に大島を眺めることが出来ました(下の写真)。



屋上にある露天風呂で汗を流した。海からの冷たい風が湯面を這いととても心地よかった。夕食はお任せコースで日本食の料理の名称は難しくよく読めなかったがそ

れらしい料理が出た(下の写真)。



ホテルの案内に日の出コールサービスがあったので申し込んだが残念ながら日の出の瞬間は見る事が出来なかった。しかし、数分後の写真が撮れた(右の写真)。ホテルの山側には温室と日本庭園があったので散策した。温室の中の花を一枚(下の写真)



チェックアウトのとき、偶然、大学の先輩夫妻に出会った。先輩はこのホテルを定宿にしているようであった。



ホテルのシャトルバスで熱海駅へ行き、そこからバスで熱海梅園へ行った。梅園は熱海梅ラインに沿った溪谷のせせらぎの両側にある(下の写真)。

バスで、来た道を戻り、途中、市役所前で



降り、起雲閣を訪れた。パンフレットに「時を止めた美が、時代を動かす大正・昭和の浪漫あふれる名邸とある通り、見ごたえのある屋敷であった。1919(大正 8)年に政・財界で活躍し、「海運王」とも呼ばれた内田信也により建てられ、1929(昭和 4)年に「鉄道王」の異名を持つ根津嘉一郎によりローマ風風呂のある洋館が建てられ、庭が整備

されました。庭の中央にある大石は「根津の大石」と呼ばれ推定約 20 トンで 20 人の庭師が 2 ヶ月かけて運んだといわれています。この別荘は、非公開の岩崎別荘、今はなき住友別荘とならび「熱海の三大別荘」と賞賛された名邸が基となり、1947(昭和 22)年に旅館として生まれ変わった。宿泊客には山本有三、志賀直哉、谷崎潤一郎、太宰治、船橋聖一、武田泰淳など日本を代表する文豪たちがおり数々の代表作がここで生まれた。緑豊かな庭園、日本家屋の美しさをとどめる本館と離れ、日本、中国、欧州などの装飾、様式を融合させた独特の雰囲気を持つ洋館など三千坪の邸宅である。



左上は離れ孔雀、右上は庭園、左下の碁盤は昭和 24 年 2 月呉清源と本因坊薫和が打込み十番碁で使用した碁盤と碁石、右下は貸出部屋(雲雀)のつるし雑展示。次のページは起雲閣の平面図である。

起雲閣前で昼食を済ませ、バスで熱海駅に向かい帰路についた。

